

学力研6月セミナー

6月15日(土) エル大阪 13:30～ 研修室2

12:30 受付開始

13:00 開会

13:05 - 13:35 実践報告1 岡本 美穂

「『あいの力』で子どもの自信を引き出す授業づくり」

13:35 - 14:05 実践報告2 河田 奈緒美

「『おはよう』～『さようなら』まで学力づくりてんこ盛り」

14:05 - 14:35 実践報告3 吉田雅直

「学力研と出会って見えてきたもの

～2年生の国語、算数、体育での取り組み～」

14:50 - 15:50 銚山泰弘先生講演(追手門学院大学)

「新指導要領の課題」

15:50 - 16:20 質疑

16:20 - 感想記入・連絡

17:00～ 懇親会 (希望者のみ)

参加費 2500円(学力研会員2000円)当日受付でお支払い下さい。

銚山泰弘氏 追手門学院大学

イギリスでは、すべての教科でひとまとまりの文章を書かせることが学力評価として重視される。このことは発展的な学力を求める評価法としての長所をもつが、「書く」学力が十分に形成されていない生徒や、「書く」ことによって何が求められているのか、その評価規準を理解していない生徒にとっては、常に低い評価しか得られず、イギリスで学力格差を広げる結果をもたらしてきた評価法でもある。

しかし、形成的評価の考え方が、イギリスの中等学校の教師の授業づくりに具体化されることによって、次のような変化をもたらしている。「書く」ことが生徒の個人作業にまかされ、学力格差を広げるものになるのではなく、「書く」ことが協同のとりくみとして、全体の学力向上の方法となっている。

日本でも PISA 型の学力を多くの生徒に保障するためには、同様の方向性が求められるだろう。

「『PISA型学力』の形成とは」(ひろば 京都の教育149号)より抜粋

申し込み 「こくちーず 6月セミナー」で検索 または→
お問い合わせ 岡 atushioka5@gmail.com

